

平成 30 年度 学生生活実態調査（学生の学修状況について）

調査日時：平成 30 年 7 月 11 日～8 月 3 日

調査対象：1 年次生 103 名、2 年次生 108 名、3 年次生 101 名、4 年次生 107 名 計 419 名

調査方法：無記名マークシート方式調査票による調査結果

回収率：1 年次生 95 名（92.2%）2 年次生 67 名（62.0%）

3 年次生 67 名（66.3%）4 年次生 85 名（79.4%） 合計 314 名（74.9%）

1. H29 年度学生生活実態調査（学生の学習時間及び学習行動）の課題と対策

調査の結果、学生の 8 割が自らの学修時間を 30 分未満、もしくは 30 分以上 2 時間未満と答えていたが、提示された課題を中心に学修をしていた。また、授業の予習をしている学生はほとんどおらず、学生全体が授業の準備状態のないまま授業に出席していた。復習に関しても提示された課題は行うが、学生が主体的な学修行動には至っていなかった。今後、シラバス等で授業の準備状態や事後学修の視点を伝え、提出させるような方法が必要である。また、教員との双方向的なやりとりができるような教育システム「e-ポートフォリオ」を早期に導入し、学生の学修状況をその都度確認し、支援することが必要である。

上記の課題をふまえ、H30 年度シラバスに準備学修（予習・復習）を明記した。

これを受け、本年度は学習状況とともにシラバスの確認状況の調査を行った。

2. H30 年度調査結果

1) シラバスの確認状況

学生の 77% がシラバスの確認を行っている と回答した。学年別では、1 学年次生（61.1%）、2 学年次生（77.6%）、3 学年次生（83.6%）、4 学年次生（87.1%）であった。

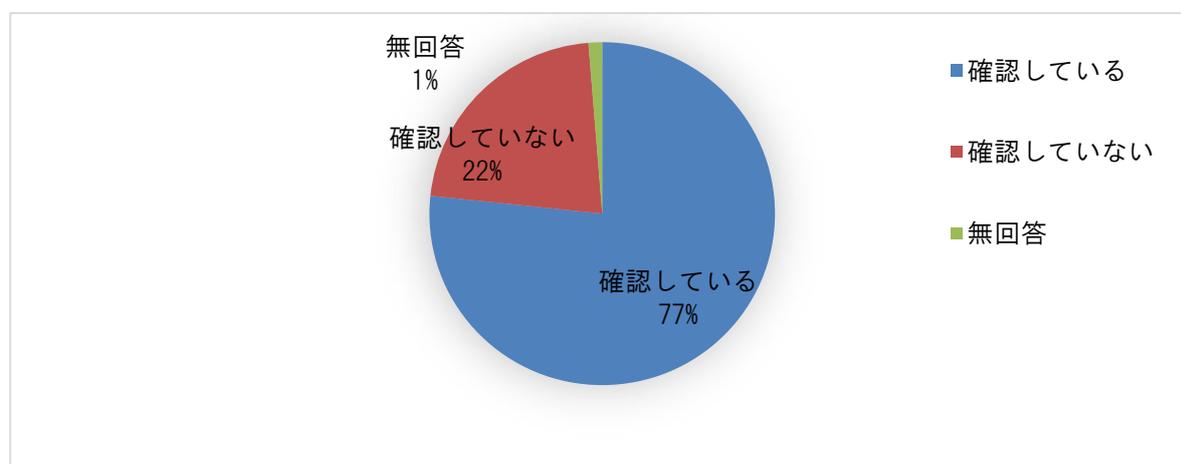


図 1 授業科目ごとに、シラバスを確認しているか

2) シラバス内の準備学修（予習・復習）の認知度と学修状況

9割以上の学生がシラバスに準備学修（予習・復習）が明記されていることを認知していた。しかし、知っている学生でも明記された学修を行っている割合は、半数にも満たなかった。

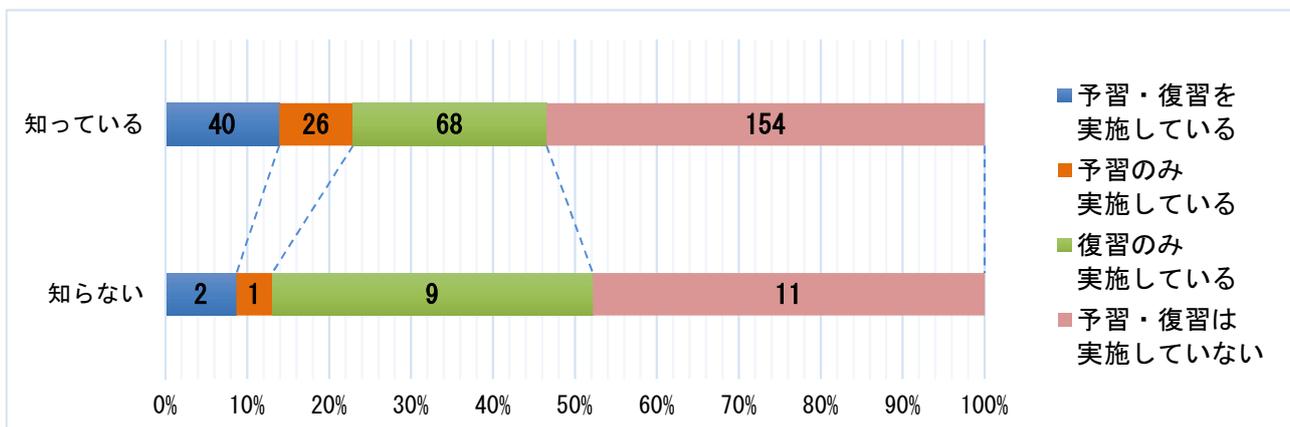
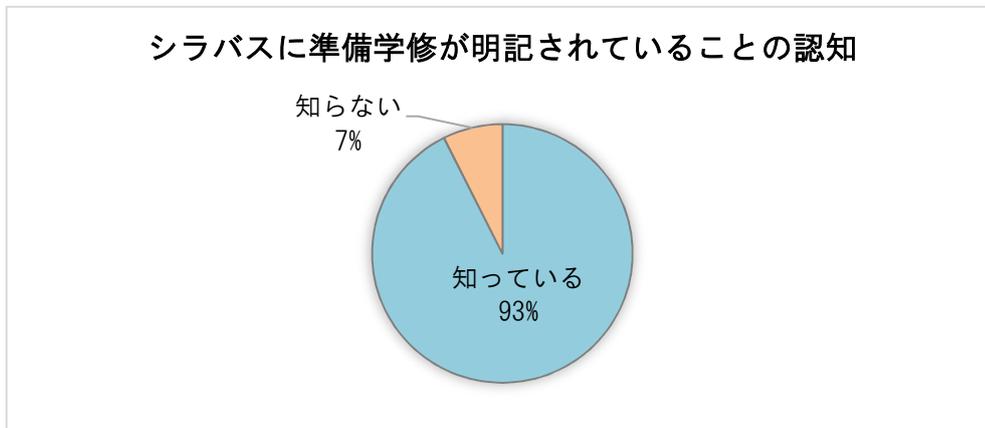


図2 シラバスに準備学修（予習・復習）が明記されていることを知っているか

3) 準備学修（予習・復習）に費やす時間

予習に費やす時間は、1時間以上2時間未満が最も多く、次いで30分以上1時間未満で2つを合わせた割合は52%であった。2時間以上予習を行うと答えた学生は19%であった。0時間すなわち予習を行っていないと回答した割合は、18%であった。

復習に費やす時間も、予習と同様の傾向であり、30分以上2時間未満が53%であった。2時間以上と答えた学生は23%、8%は復習を行っていなかった。

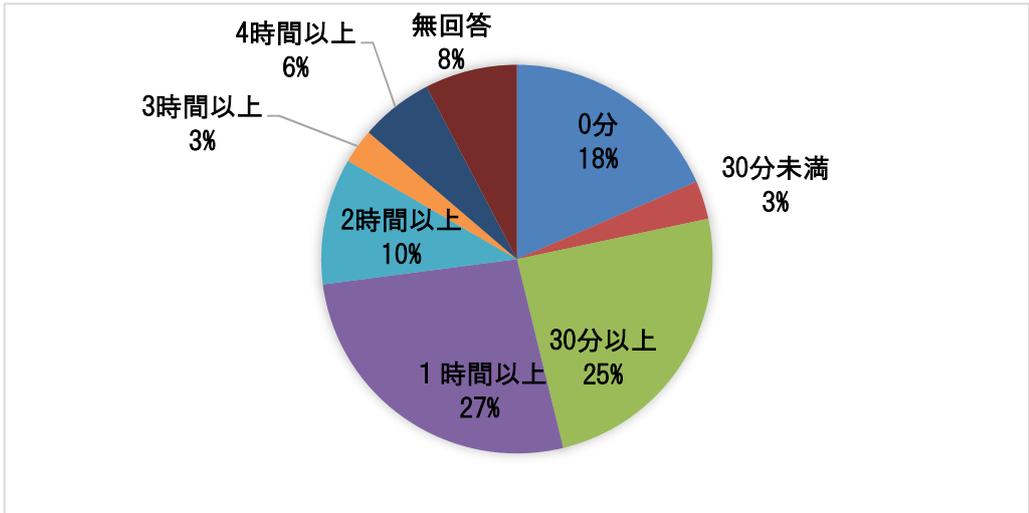


図 3 予習に費やす時間

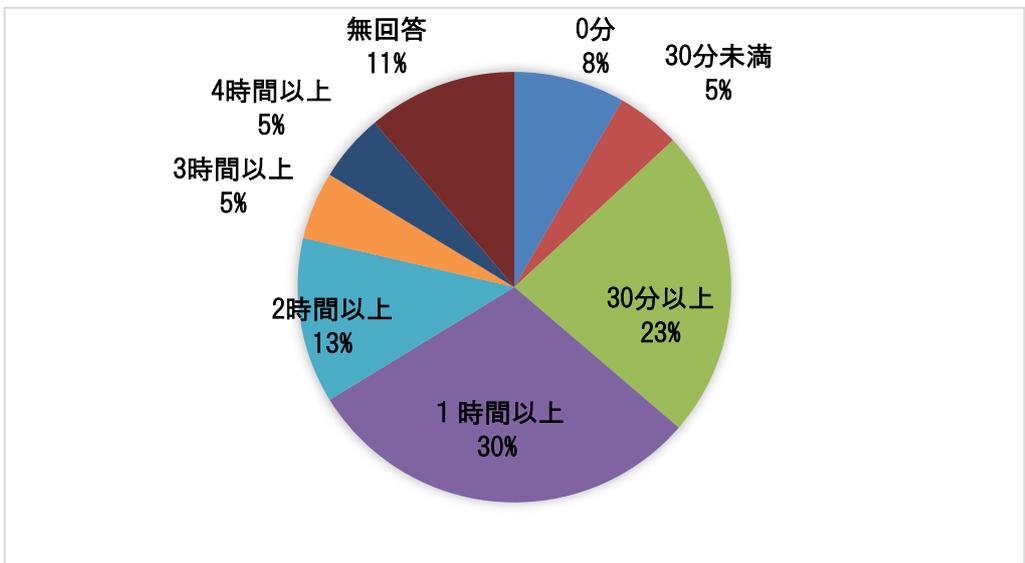


図 4 復習に費やす時間

3. 課題と対策

昨年度の課題となった準備学修について、学生はシラバスを確認し、準備学修が明記されていることを認知していた。今後もシラバスの確認についてガイダンス等で周知を行い、100%を目指すこととする。しかし、明記された準備学修についての学習状況は全学生の半数程度であった。今後は、詳細な準備学修課題の明示やe-ポートフォリオを活用した学習状況の確認と指導の体制が急がれる。

学修状況について、予習の実施状況は9%と多くの課題があったが、本調査では7割の学生が30分以上の予習を行っているとは回答しており、指導成果が表れていると評価する。また、復習についても昨年度は51%に留まっていたが、本年度は76%が30分以上の復習を行っているとは回答していた。しかし、0時間すなわち準備学修を行っていないと回答している割合が、予習9%、復習8%であった。今後は、全体の学修の底上げとともに個々の学生の学修状況をその都度確認し、支援することが必要である。